

BUSINESS

リーダーになる!



実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。13年、「怒らない技術」シリーズほか、著書の累計が100万部を突破した。
www.leaders.ac

第104回 部下の育成は社会貢献

成長する企業には、上質の文化があります。その文化のもと、良い部下を育てることは良い人材を育て社会に輩出することであり、社会貢献の一つです。

成長要素の一つ
上質な企業文化

ハーバード大学の研究によれば、企業の成長フアクターの80%が、その企業に根付いた、目には見えない「文化」に起因しているそうです。ということは、会社の成長のためには企業文化を上質化することが必要になります。上質な文化形成のためには、普段からの仕事やコミュニケーションを通じての社員教育が欠

かせません。

この教育とは、普段から永続的に行うからこそ効果が出るものであり、決して単発の教育や短期間で形成できるものではありません。では、普段から社員への仕事を通して教育を行っていく一番のコア人材は誰でしょうか？ それは、紛れもなく、部下を持つ上司です。

人は誰に教わるか、誰に相談するか、誰と出会うかによって人生の質が変わり

ます。人の体がビタミンやミネラルや糖質といった栄養素から形成されるように、人生・仕事の成果は、「良い思い込み」と「良い言葉」、「良い学び」により作られるからです。部下は良い上司に出会うことによって、この三つをインストールし、意思決定の質が変わり、行動の質が変わり、成果の質が変わります。

働く楽しさを後世に
ペイフォワード精神

このように、上司自身が「上司とはどうあるべきか」を学び、普段の仕事を通して部下へ良い思い込み・言葉・学びをペイフォワード

(次へ渡す)して行くことにより、上質な文化が形成され、企業も成長できるのです。同時に、フリーターやニートが増殖し続ける中、見本となるべき今の大人たちはもつと、「働くことの素晴らしさ」「大人になることの素晴らしさ」を後世に伝えていける、魅力的な人間になる必要があります。

その大人たちが最も影響を受けるのが仕事環境で、上司です。そのように考えれば、上司も部下も、ビジネスパーソンである前に、男であり、女であり、父親であり、母親です。最も影響を及ぼす上司が魅力的であり、その

